
平成29年度千葉県ボランティア参加促進事業
2020ちばおもてなし隊チャレンジステージ
ー参画と繋がりー

事業報告書



2018. 3

千葉県

特定非営利活動法人 生涯学習応援団ちば

□目 次

はじめに ―主催者あいさつ―	1
千葉県環境生活部県民生活・文化課	
日本版ボランティア「おもてなし」を世界に発信しよう	2
特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば 理事長 明石要一	
平成29年度千葉県ボランティア参加促進事業	
「2020ちばおもてなし隊チャレンジステージ」の実施結果	
Ⅰ 事業の目的	3
Ⅱ 事業計画	3
Ⅲ 事業の実施結果	3
1 「街の魅力・バリア点検隊」の実施	3
2 パラスポーツを体験し交流しよう	11
3 第16回世界女子ソフトボール選手権大会等でのおもてなし活動の準備 「2020ちばおもてなし隊 高校生千人委員会」（仮称）の立上げ	12
4 おもてなしボラコン！	12
5 フォーラム「2018→2020 私たちのおもてなし」	12
Ⅳ 2020千葉おもてなし隊チャレンジステージの推進	21
1 関係団体との協力	21
2 広報について	22
3 企画会議・意見交換会等について	23
Ⅴ 参加者の声	24
2020ちばおもてなし隊チャレンジステージを終えて	28

【参 考】

フォーラム「2018→2020 私たちのおもてなし」ポスター・チラシ
原画作成：山田 萌々恵さん（千葉県立幕張総合高等学校2年生）
デザイン協力：斉藤 望さん、渡辺 修一さん

はじめに ― 主催者あいさつ

千葉県環境生活部 県民生活・文化課

皆さんこんにちは。千葉県県民生活・文化課 副課長の渡部と申します。本日はようこそおいでいただきました。主催者を代表してお礼申し上げます。

さて、この「フォーラム 2018→2020 私たちのおもてなし」は、多くの方にボランティア活動に参加していただくことを狙いとした県の「ボランティア参加促進事業」の一環として、「特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば」の御協力を得て実施するものです。

ご承知のように県内では、今年8月に世界女子ソフト選手権が、そして2020年には東京オリンピック・パラリンピック8競技が開催され、国内外から多くのお客様が千葉県を訪れます。

このようなお客様を「おもてなし」の心を持って温かくお迎えし、「千葉に来てよかった、また来たい」と言っていただけよう取り組んでいく必要があると考えています。

すでに、大会に向け、多くの団体や学校では、様々な取組を実施していただいておりますが、第1部では、それらの方々から活動の紹介をしていただきます。併せまして、いよいよ今年夏頃に募集が始まる、東京オリンピック・パラリンピックの大会関連ボランティアなどの紹介も行います。

また、第2部では、事前に高校生の皆さんに提案いただいた「おもてなしアイデア」の実現に向け、高校生の皆さんからアイデアを発表していただき、第3部で、それらアイデアをもとに、意見交換などを行っていただく予定となっています。

本日は、このフォーラムを通じて、新しい「気づき」や「発見」があるかもしれません。そして、それぞれが持ち寄った「おもてなし」のアイデアをさらに磨き上げていただき、今後、実際の活動や行動に結び付けていただければと思います。

それでは皆さん、今日はどうか楽しく有意義な時間を過ごしてください。

(平成30年2月17日開催のフォーラムでの主催者あいさつを掲載しました。)

日本版ボランティア「おもてなし」を世界に発信しよう

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば

理事長 明石 要一

「おもてなしボラコン！」の活気すごかったです。高校生を中心としたワークショップ実りあるものでした。ここで提案されたアイデアが実に見事でした。すぐに取り入れたいものばかりでした。千葉と日本の伝統的な文化の特色を活かしたものが目を曳きました。

千葉県では今年8月、世界女子ソフトボール選手権大会が開催されます。世界から16カ国のチームが参加します。大会は8月から始りますが、その前にはキャンプがあります。2019年にはラグビーのワールドカップが日本で開催されます。開催県にはありませんが、キャンプ地には多くの市が手を挙げています。そして、2020年にはオリンピック・パラリンピックがあります。千葉にも多くの選手が訪れます。

流れは「千葉」に向かっています。

日本人のよさとして、「清潔感」と「時間を守る」、そして「正直さ」が強調されます。確かにその通りです。もう一つ忘れてはいけないのが「おもてなし」です。相手の立場に立って快い空間を提供する姿勢です。日本版ボランティアといえるのではないのでしょうか。

高校生の皆さん、「おもてなし」を通して日本のよさを世界にアピールし、自国の文化に誇りを持って欲しいものです。そして、この活動を基盤にして未来に向かって歩もうではありませんか。

平成29年度千葉県ボランティア参加促進事業

「2020ちばおもてなし隊チャレンジステージ」の実施結果

I 事業の目的

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、千葉県ではオリンピック4種目、パラリンピック4種目の競技が開催される。これまでの活動を踏まえ、本年度は「参画」と「繋がり」をキーワードに、3年後にボランティア活動の主力世代である高校生・大学生が、2020ちばおもてなし隊セカンドステージの提案内容を受け、「今だからできる」を合言葉に、提案の実行に取り組むこととした。更に、高校生と大学生の繋がり、高校生・大学生とボランティアに取り組む様々な主体との繋がり、創出を目指した。

II 事業計画

上記目的を達成するため、次の5つの事業を計画した。

1 モデル事業「街のバリアフリー化サポート」（仮称）の実施

パラリンピック会場となる幕張新都心で、視覚障がい者、車イス使用者などと連携し、高校生たちが改善点などを実地でチェックし、自らの役割を確認するとともに、行政その他関係者に提言を行う。

2 パラスポーツを体験し交流しよう

学校、青少年団体などと連携し、パラスポーツ体験とオリンピック・パラリンピックの学習や意見交換会などを組み合わせ、繋がりを広げる。

3 第16回世界女子ソフトボール選手権大会等でのおもてなし活動の準備

2018年に千葉県で開催される世界女子ソフトボール選手権大会や、1年前イベントでの文化紹介などのおもてなし活動について大会組織委員会の協力を得ながら高校生たちが検討し、提案をする。

4 「2020ちばおもてなし隊 高校生千人委員会」（仮称）の立上げ

SNSを活用して、高校生たちによる2020年オリンピック・パラリンピックに向けたボランティア活動の意見発表や提案を行う仕組みを用意する。2020年までに千人規模の参加者を目指す。

5 フォーラム「2020東京オリンピック・パラリンピックーボランティアで何ができるかー」（仮題）の開催

2020年に向けて若者たちによるボランティア活動を検討、提案又は実行している団体（企業、NPOその他法人、任意団体、大学、行政など）が集まり、パネルディスカッションと団体によるプレゼンテーション、若者を交えた意見交換会を行う。

III 事業実施結果

1 「街の魅力・バリア点検隊」の実施

本事業では、2020ちばおもてなし隊セカンドステージで高校生たちが提案をした「街のバリア

フリー化サポート」を受け、パラリンピック会場となる幕張新都心で、高校生たちが視覚障がい者、車いす使用者などと連携し、街の魅力を再認識するとともに、改善点などを実地でチェックし、自らの役割を確認するとともに、行政その他関係者に提言を行うことを目指した。

実施にあたって、高校生たちが大学生のサポートを受けながら、自ら考え調査を行うことで、ボランティア活動に参画する実感を味わって頂くこととした。

なお、本事業は、モデル事業として実施することや、実施場所を幕張新都心としたことなどから、千葉市、習志野市、船橋市、八千代市の高等学校に参加を呼び掛けた。

併せて、調査結果を視覚的に表現することで訴求力が高まると考え、幕張新都心周辺の高等学校放送部（放送委員会）に動画撮影の協力をお願いした。

この結果、調査及び映像記録に参加していただいた学校は次の通りであった。

○調査参加者在籍校（順不同）

昭和秀英中学校・高等学校、千葉女子高等学校、千葉商業高等学校、船橋豊富高等学校、東葉高等学校、四街道特別支援学校

○映像記録作成参加校（順不同）

幕張総合高等学校、検見川高等学校、千葉西高等学校、昭和秀英中学校・高等学校

また、本事業を通して、学生団体おりがみの皆さんにはファシリテーターとして参加いただき、高校生たちの調査をサポートしていただいた。

事業名については、計画では、モデル事業「街のバリアフリー化サポート」（仮称）としていたが、参加者と協議し、調査の趣旨も踏まえて「街の魅力・バリア点検隊」とした。

（１）第１回打合せ会

開催日時 平成29年 6 月 3 日（土） 15時30分～ 17時20分

会 場 ちば国際コンベンションビューロー会議室

実施内容

ア 講義「バリアフリーを考える」

講師：瀧本 和男さん（千葉県立千葉盲学校教諭）

尾崎 千里さん（獨協大学経済学部経営学科 3年）

吉本賀永子さん（千葉大学国際教養学部国際教養学科 1年）

視覚障がいや車いす利用者の立場から、バリアフリーについての問題、調査の視点などについての講義が行われた。

イ グループ討議

5班に分け、グループごとにバリアフリーについての意見交換、まとめ、発表を行った

参 加 者 総数 38人

高校生、中学生、特別支援学校生徒など 22人（顧問を含む）

講師、ファシリテーター、事務局など 16人

（２）第２回打合せ会

開催日時 平成29年 7 月 15 日（土） 13時30分～ 15時20分

会 場 千葉県立幕張総合高等学校 会議室

実施内容

ア 趣旨説明

高校生からの視点で、オリンピック・パラリンピックの会場となる幕張新都心のバリアフリーについて問題点や改善点の提案、空間の有効利用方策の提案などを行うことを説明。なお、本事業の目的などを踏まえ、実地調査から名称を「街の魅力・バリア点検隊」とした。

イ 第1回打合せ会の概要についての再確認

視覚障がい者、車いす利用者の視点からのバリアフリーについて、第1回目で行った講義内容を再確認した。

ウ 調査コースの決定及び調査グループの編成について

昭和秀英の生徒から、5つのコースが提案され、協議の結果、各コースの調査、映像担当は次の学校に決定した。

コース1 海浜幕張駅からメッセ大通りを経てイベントホール方面へ
調査担当 昭和秀英中学・高校、四街道特別支援学校
映像担当 昭和秀英中学・高校

コース2 海浜幕張駅からワールドビジネスガーデン（WBG）マリブイースト・ウェスト間を抜けてイベントホール方面へ
調査担当 千葉女子高校、昭和秀英中学・高校 映像担当 千葉西高校

コース3 海浜幕張駅からWBGイースト・ウェスト間を抜けてメッセモール方面へ
調査担当 東葉高校、昭和秀英中学・高校 映像担当 千葉西高校

コース4 海浜幕張駅から幕張海浜公園、見浜園方面へ
調査担当 千葉商業高校、昭和秀英中学・高校 映像担当 幕張総合高校

コース5 メッセ中央からマリNSTAGIUM方面へ
調査担当 船橋豊富高校 映像担当 検見川高校

各コースには学生団体おりがみのメンバーがそれぞれ2名参加することとなった。

エ グループ討議

各グループに分かれ、調査項目や、調査の際の役割分担などを話し合った。また、29日が荒天の場合の連絡方法なども協議した。

オ 実地調査の事前トレーニング

グループ討議終了後、幕張総合高校から29日の集合場所となるWBGアトリウムまで歩きながら、調査シートに基づき調査方法、記入方法を検証した。

参加者 総数 68人

高校生、中学生、特別支援学校生徒など 53人（顧問等を含む）

ファシリテーター、助言者、事務局等 15人

（3）街の魅力・バリア点検隊 実地調査

調査要領

東京2020オリンピック・パラリンピックの会場地の一つである幕張新都心地域について、高校生たちの視点から街の魅力を再認識するとともに、バリアフリーに関する問題点や改善の提案を行うための調査を5コースに分かれて調査した。

調査日時 平成29年7月29日（土） 9時30分～11時30分

調査コース・グループ編成

第2回打合せ会で決定したとおりに実施した。

参加者 総数 77名

高校生、中学生、特別支援学校生徒など 48人 引率者等 9人

千葉県、ファシリテーター、事務局等 20人（学生団体おりがみ 13人）

調査は、予定の時間通り実施し、終了後、全グループがちば国際コンベンションビューロー会議室を借用し、13時過ぎまで、今後のまとめなどについての打合せを行った。

また、調査結果の発表会は平成29年9月23日（土）に開催することとした。

（4）街の魅力・バリア点検隊発表会

開催日時 平成29年9月23日（土・休日） 13時～15時

会場 昭和学院秀英中学校・高等学校 6階会議室（千葉市美浜区若葉1-2）

参加者 総数 73人

高校生、中学生、特別支援学校生徒 35名 引率等 10名

学生団体おりがみ 5名 助言者 2名（明石学長、瀧本先生）

千葉県及び千葉市関係者等 14名（指定管理者、まちづくり協議会関係者を含む）

一般参加者 2名 生涯学習応援団ちば事務局等 5名

会の流れ 司会・進行：昭和秀英中学校・高等学校放送部生徒

ア 調査結果発表

各グループから自作のポスター、パワーポイントなどを使用して調査結果発表を行った。

イ ワークショップ

参加者が各グループのポスターの前で、質疑、意見交換を行い、意見や感想を付箋に書いて貼っていった。

ウ まとめ

グループごとに頂いた意見についてのまとめを行い発表した。

エ 助言者からのコメント

千葉県職員、千葉市職員、瀧本和男さん（県立千葉盲学校教諭）、生涯学習応援団ちば明石理事長が発表についてコメントした。

調査結果に基づく主な指摘・意見等

ア 点字ブロックについて

○破損、見づらさ、途切れなどの個所について各コースから指摘、紹介があった。

イ 車いす利用の視点から

○自動販売機の使い勝手の悪さについて（コインの挿入口、ボタンの位置、取り出し口）などについて指摘があった。

○スロープの角度（急すぎる）、道路の段差、道路の狭さなどについて指摘があった。

○エレベーターの車いす用ボタンの故障及び取り付け位置などについて指摘があった。

ウ その他

○手すりについては破損個所、暑さ対策の必要性、障害物（木の葉）があり使い勝手の悪さな

どについて指摘があった。

○金属製のベンチについて、冷たくなならないよう木製のベンチにのしてはどうかとの意見が出された。

○交通案内、町の案内標識について分かりやすくすべきとの意見が出された。

高校生たちからの提案事項など

○暑さ対策として歩道に屋根をかけ、ミスト、給水スポットの整備などで対応してほしい

○施設の利用者目線での整備が必要

○見浜園などは日本の伝統・文化を感じられるスポットであり、もっとアピールをすべき

○幕張の様々な施設を活用して日本文化を紹介したい

ワークショップを終えて

○これから施設のバリアフリーだけではなく、心のバリアフリーに力を入れていきたい（高校生）

○バリアフリーについては、施設整備の問題だけではなく、すぐに取り組める簡単な改善点も見出し、まとめていきたい（高校生）

○発表内容には素晴らしいものがあり、大人では思いつかないものもあり、魅力を感じた。これからどんどん行政側に働きかけて欲しい。（行政関係者）

○高校生・大学生、行政、民間などが協力してオリンピック・パラリンピックを成功させたい。（助言者）

行政機関等との情報共有

発表会で高校生たちが作成した資料については、平成29年10月31日に生涯学習応援団ちばから千葉県及び千葉市に情報提供を行い、それぞれの組織内での情報共有を依頼した。

（５）点検隊まとめの会

開催日時 平成29年11月25日（土） 14時～ 16時

開催場所 千葉大学教育学部 4 号館409教室

参加者 総数 16人

高校生、中学生、特別支援学校生徒 9人

学生団体おりがみ 4人 引率・保護者・生涯学習応援団ちば 3人

実施内容

○9月25日に開催した「街の魅力・バリア点検隊発表会」で、高校生たちの調査結果に寄せられた意見、感想、提案などを整理した。

○今後の取組みとして、バリアフリーの問題点の指摘だけではなく、車いす等の利用者の視点に立ったマップづくりを進めたいことなどの意見が出された。

チャレンジステージ 活動の様子 「街の魅力・バリア点検隊」



第1回打合せ会（6月3日）



視覚障がいについて学ぶ（6月3日）



点検隊実地調査出発前に打合せ（7月29日）



点字ブロック調査の様子（7月29日）



調査シートに記入（7月29日）



大学生と相談中（7月29日）

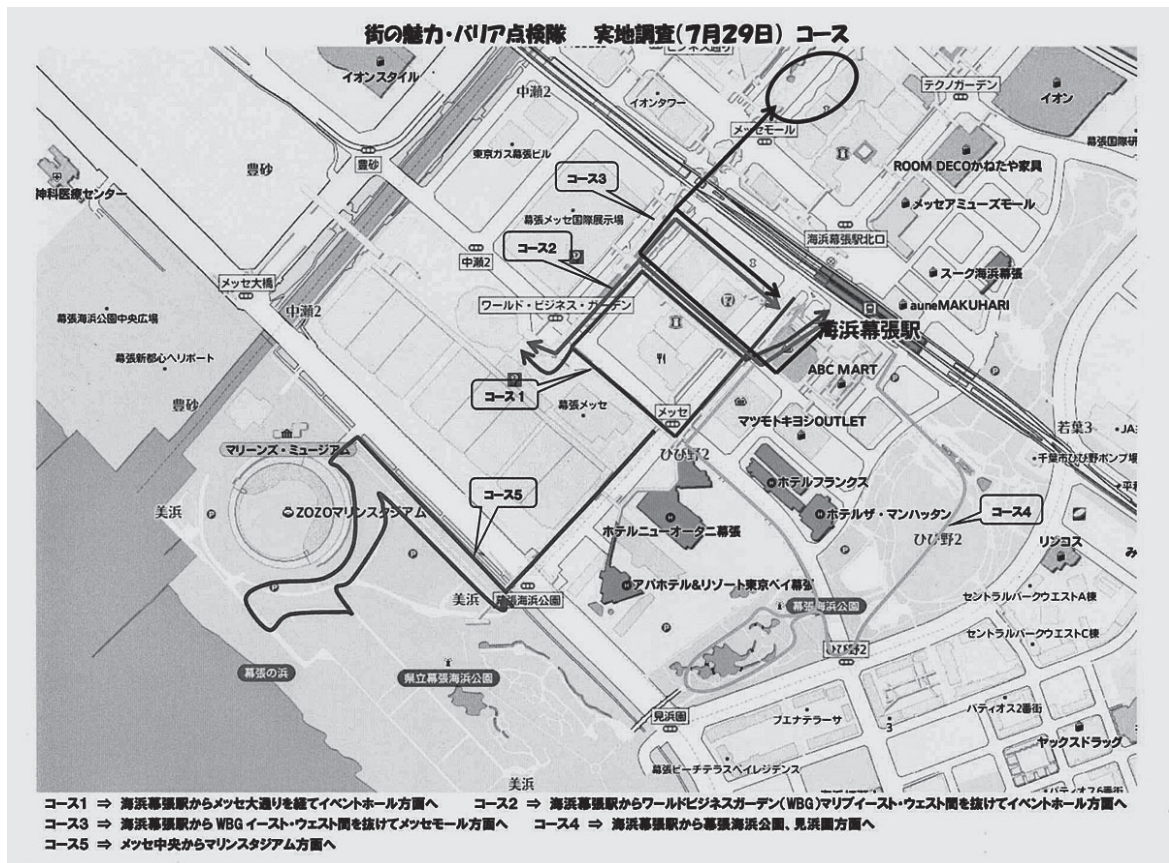


細かくチェック（7月29日）



調査終了後のまとめ（7月29日）

「街の魅力・バリア点検隊」 関連資料



点検隊が調査した5つのコース

2020ちばおもてなし障チャレンジステージ
 街の魅力・バリア点検隊 実地調査シート No. 1

1. 調査日: 平成29年 7月29日(土)
 2. コース名: _____
 3. 調査メンバー: _____
 4. 調査結果

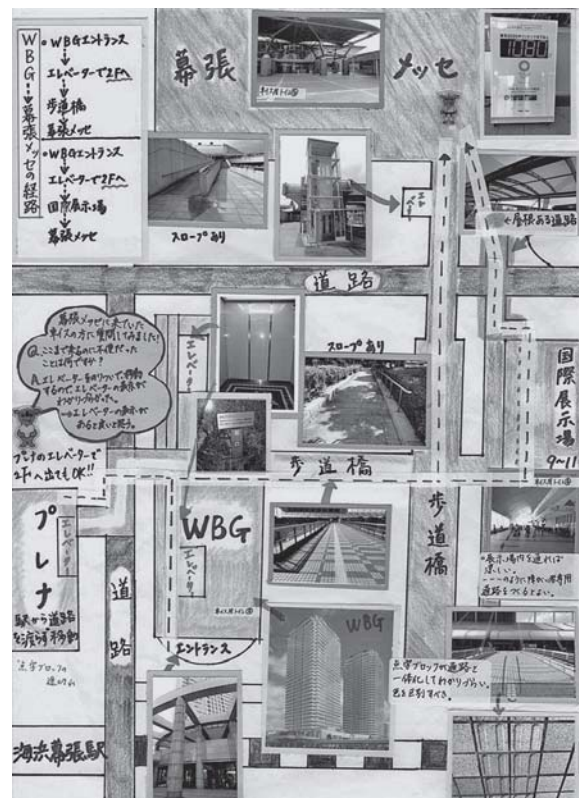
スタート: _____
 地図上: _____
 約 _____ 歩/m
 約 _____ 分

問題点、魅力、提案など

ポイント: _____
 地図上: _____
 約 _____ 歩/m
 約 _____ 分

問題点、魅力、提案など

点検隊で使用した調査シート



生徒達が作成したマップの一例

「街の魅力・バリア点検隊」

調査結果発表会（9月23日）



パワーポイントを使い調査結果を発表



調査結果をまとめたマップを貼り出す生徒たち



マップの前で意見交換



参加者の交流の様子



寄せられた意見をまとめる生徒たち

2 パラスポーツを体験し交流しよう

学校、青少年団体、ボランティア団体などと連携して、パラスポーツ体験とオリンピック・パラリンピック学習や意見交換会などを組み合わせ、繋がりを広げることを目指した。

(1) 白井市社会福祉協議会主催「サマースクール」での交流とパラスポーツ体験

白井市社会福祉協議会主催のサマースクール「オリンピック・パラリンピックを学ぼう」のコース2日間のうち、1日を「ゴールボールに挑戦!」として、プログラムの作成、講師等の紹介、現地での指導などを行った。

開催日時 平成29年8月16日(水) 9時～15時

開催場所 白井市福祉センター(白井市清戸766-1)

参 加 者

応募による参加者(市内の小・中学生) 11人

講師: 渡邊紫帆さん(ロンドンパラリンピック出場選手、千葉盲学校卒)

津田亘彦さん(県立船橋豊富高校教頭、ゴールボール等の実技指導)

学生団体おりがみ 6人(体験・交流担当)

生涯学習応援団ちば関係者 2人

主催者(白井市社会福祉協議会関係者)

実施内容

以下のプログラムで実施した。

- 1 五輪のマークを作ってみよう 担当: 学生団体おりがみ
参加者全員で、五輪のマークを折り紙で作り、その意味を学ぶ
- 2 オリンピック・パラリンピッククイズ 担当: 学生団体おりがみ
- 3 2012年ロンドンパラリンピック陸上競技に走り幅跳びで出場した「渡邊紫帆さんのトークショー」
- 4 ランチタイム(渡邊さんや大学生とのランチ、ふれあいの時間)
- 5 ブラインド体験 担当: 津田亘彦さん 助言: 渡邊紫帆さん
グループでアイマスクをして様々な体験をし、暗闇の中での音の大事さ、コミュニケーションの大事さを学ぶ
- 6 ゴールボールをやってみよう 担当: 津田亘彦さん 補助: 学生団体おりがみ
3対3でのゴールボール体験
プログラム原案作成: 千葉県スポーツコンシェルジュ大久保利宏さん
おりがみで五輪のアイディア提供: 昭和学院秀英高校藤江智子さん
ゴールボール提供: 千葉市

(2) 昭和学院秀英中学校 パラスポーツ体験について

昭和学院秀英中学校3年生の道徳の授業でパラスポーツ体験を実施した際、ゴールボールの指導補助を行った。

実施日時 平成29年11月22日(水) 12時40分～14時25分

会 場 昭和学院秀英中学校・高等学校 第一体育館、第二体育館

実施時間・人数

当日の午後の授業2時限を活用して、パラスポーツ体験を実施する

12:40～13:25 中学生 70人

13:35～14:20 中学生 105人

実施方法

最初にパラリンピックの意義などについて担当の先生が全員に説明後、生徒が6人1組となりゴールボール、シッティングバレーボール、ボッチャを順次体験した。この中でゴールボールの指導を担当した。指導担当は、千葉県スポーツコンシェルジュの大久保利宏さんに依頼した。

なお、ボッチャは学生団体おりがみの皆さんが指導を担当した。

3 第16回世界女子ソフトボール選手権大会等でのおもてなし活動の準備及び「2020ちばおもてなし隊 高校生千人委員会」(仮称)の立上げ

SNSを活用した「高校生千人委員会(仮称)」は、本年度は検討途上であるが、二つの事業計画の趣旨を生かし、「おもてなしボラコン!」で第16回世界女子ソフトボール選手権大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピックのおもてなしやボランティアのアイディアを募集し、フォーラム「2018→2020 私たちのおもてなし」で、提案のあったアイディア発表を行うこととした。

4 おもてなしボラコン!

東京2020オリンピック・パラリンピック及び2018年に千葉県で開催される第16回世界女子ソフトボール選手権大会について、高校生たちがどのように関わるか、どのようなボランティア活動に取り組みたいのかのアイディアを募集した。提案アイディアのテーマは、大会参加国の選手たちへの応援、おもてなし活動、千葉の文化・魅力発信などとした。

なお、優れた提案については、生涯学習応援団ちばが関係者と協力して、アイディア実現のためのサポートを行うこととした。

参加資格 県内の高等学校、特別支援学校の在校生及び県内に在住する高校生等

募集期間 平成29年12月11日～平成30年1月20日

応募結果 県内10の高校の生徒から42の提案

ボラコン!参加者の学校名(順不同)

沼南高校、中央学院高校、船橋二和高校、成田西陵高校、佐倉高校、一宮商業高校、千葉女子高校、松尾高校、幕張総合高校、昭和秀英中学・高校

提案発表 平成30年2月17日開催のフォーラム「2018→2020 私たちのおもてなし」の中で発表

5 フォーラム「2018→2020 私たちのおもてなし」

フォーラムでは、第16回世界女子ソフトボール選手権大会や2020年の東京オリンピック・パラリンピックでのボランティア活動に取り組む様々な団体等による活動の紹介及び高校生たちを対象に実施した「おもてなしボラコン!」で応募のあったアイディア発表と、それらアイディアを巡って

の様々な年代の人々による意見交換や交流、優れたアイデアを参加者全員の投票により選ぶことなどを通しておもてなし活動やボランティア活動への参加のきっかけづくりを目指した。

事業名については、当初計画は「フォーラム「2020東京オリンピック・パラリンピック ボランティアで何ができるか」」としていたが、事業の詳細を詰めていく中で、フォーラム「2018→2020 私たちのおもてなし」に改めた。

開催日時 平成30年2月17日（土） 13時30分～17時15分

開催場所 千葉大学 総合校舎1号館 201

参加者 総数 137人

おもてなしボラコン！アイデア提案校関係者 56人（提案10校中8校参加）

一般参加者 42人

公的機関・団体・取組み紹介 18人

運営スタッフ等 21人

参加者中 中学生7人（2校）、高校生63人（14校）、特別支援学校生徒1人（1校）

会の流れ 司会・進行：幕張総合高校放送委員会生徒

ア 開会行事

千葉県県民生活・文化課 渡部副課長 生涯学習応援団ちば 明石理事長 あいさつ

イ 第1部 2018年・2020年に向けた取組み

コーディネーターの進行で、県及び各団体から2018年の世界女子ソフトボール選手権大会、2020年東京オリンピック・パラリンピックのボランティアについての情報提供を行うとともに、各団体から特色ある取組みの紹介があった。

コーディネーター 千葉県スポーツコンシェルジュ 大久保利宏さん

発言者（発言順）

千葉県環境生活部県民生活・文化課 副主査 仁平貴子さん

第16回世界女子ソフトボール選手権大会組織委員会事務局次長 笹沼孝一さん

プロジェクト結 代表 小林由佳さん

学生団体おりがみ 代表（千葉大学4年生） 都築則彦さん

昭和秀英高校2年生 勝山直毅さん

千葉県国際交流センター 国際交流推進員 工藤弥生さん

みんなで応援！千葉県経済団体協議会 大塚泰祥さん

ウ 第2部 おもてなしボラコン！のアイデア発表

「おもてなしボラコン！」で提案のあったアイデアの概要を参加8校の生徒がパワーポイント、自作のポスターなどを利用して発表した。

発表者（発表順）

沼南高校生徒（3件）、一宮商業高校生徒（1件）、成田西陵高校生徒（1件）、

佐倉高校生徒（1件）、千葉女子高校生徒（1件）、松尾高校生徒（11件）、

幕張総合高校生徒（1件）、昭和秀英高校生徒（2件）

エ 第3部 ワークショップ

学生団体おりがみの進行で、「提案のテーマ」ごとにグループを作り、アイスブレイク後、それぞれのグループで詳しいアイデアの発表や意見交換を行った。

その後、他のテーマのグループのアイデアについて会場内を移動しながら提案者と参加者が意見交換や交流を行い、最後に参加者全員が、「いいね！」と思ったアイデアに投票した。この投票では、学生団体おりがみがスマートフォンを利用した投票方式を開発し、実施した。（投票用紙を用いた投票も実施）

オ 閉会行事

おもてなしボラコン！の結果発表は、集計作業の関係で、翌18日、生涯学習応援団ちば及び学生団体おりがみのFacebookでお知らせした。

最後に、協力3団体（世界女子ソフトボール選手権大会組織委員会、みんなで応援！千葉県経済団体協議会、学生団体おりがみ）からの感想・メッセージが述べられ、終了した。

参 考

フォーラムでの投票の結果、「いいね！」を沢山獲得したアイデアは次のとおり。

【第16回世界女子ソフトボール選手権大会の部】

タイトル 「応援グッズ」

提案者の在籍校 県立沼南高等学校

【2020年東京オリンピック・パラリンピックの部】

タイトル 「千葉県の聖火リレー」

提案者の在籍校 県立幕張総合高等学校、県立一宮商業高等学校

タイトル 「地震リーフレットを作ろう！ ～日本を訪れる旅行者に安心を～」

提案者の在籍校 県立佐倉高等学校

タイトル 「やさしい日本語で『誰でも』コミュニケーション！」

提案者の在籍校 県立松尾高等学校

「パラスポーツを体験し交流しよう」



おりがみで五輪マークに挑戦
(8月16日／白井市サマースクール)



大学生とオリンピック〇×クイズに挑戦
(8月16日／白井市サマースクール)



講師の津田さん、渡邊さんと視覚障がい体験
(8月16日／白井市サマースクール)



ゴールボールを体験
(8月16日／白井市サマースクール)



ゴールボールのレクチャー
(11月25日／昭和秀英中学)



ゴールボールを体験
(11月25日／昭和秀英中学)

フォーラム「2018→2020 私たちのおもてなし」（2月17日）



会場を埋める参加者の皆さん



パワーポイントを使ってアイデアを紹介



テレビカメラの前で堂々とアイデア紹介



自作のポスターでアイデア紹介



熱心にグループ討議



アイデアをブラッシュアップ



大人たちもアイデアに注目

おもてなしボラコン！で応募いただいたアイデア

第16回世界女子ソフトボール選手権大会（チームの応援）

番号	提 案 内 容	提案者の学校
1	チームごとに事前に集まり、メガホンやうちわなどを作成し配る	沼南高校
2	参加チームの応援グッズ販売や試合会場入場時にタオルか水等を配布	松尾高校
3	応援団を作り応援団長を一人決めて応援団長を中心に応援	松尾高校

第16回世界女子ソフトボール選手権大会（暑さ対策）

番号	提 案 内 容	提案者の学校
4	人が通ると自動で動くだけではなく、自分でつけられる冷房にする	中央学院高校
5	汗を吸収しやすい素材を使った服や手持ち扇風機を作る	松尾高校
6	汗を吸いやすいタオルを配ったり、帽子を配ったりする	松尾高校
7	塩飴やスポーツドリンクの配布か帽子やタオルの配布	松尾高校
8	ボランティアグッズの中にタオルを入れ、忘れた人に渡す	松尾高校

2020年東京オリンピック・パラリンピック（今からできるボランティア）

番号	提 案 内 容	提案者の学校
9	週末などに、案内マニュアルなどを作り実際に外国人を案内	中央学院高校
10	語学に興味ある人やボランティアで役立ちたいと思う人などが通訳して色々なことを説明	中央学院高校
11	会場で接客などをする	松尾高校
12	2020年に向けて、街のごみ拾いや自然環境を増やすなど環境を良くする	松尾高校
13	オリンピック開催時に一般の人が参加できるごみ拾い活動を行い、参加者は拾ったごみの量などによりグッズ等をもらう	松尾高校

2020年東京オリンピック・パラリンピック（おもてなし）

番号	提 案 内 容	提案者の学校
14	ボランティアで身に付ける物などを日本風の柄にする	中央学院高校
15	一つの町を江戸時代風にして、日本茶や日本食を食べるところを作る	沼南高校
16	地震の怖さや、地震が発生した時の対処法を場所別に説明するリーフレットの作成・配布	佐倉高校
17	日差しよけにロゴマーク入りのサンバイザーや扇子を作成する	船橋二和高校
18	ホテルや娯楽地を増やし、日本のすごさを外国人に教える	松尾高校
19	オリンピックの会場近くなどでこまっている外国人を高校生ボランティアが助ける	松尾高校
20	千葉県各地域で無料英語教室を開催し、地域全体で英語力を高める	松尾高校
21	特色ある部活動による演奏、演技で開会式等を盛り上げる。また、会場周りの花壇に花を植える等、大会を華やかに準備する。生徒がお年寄りや車いすのお客様のお手伝いをする。家政科生徒が大会に出場する選手のために、日本や千葉県の魅力を盛り込んだ手作りの料理やお菓子をプレゼント。	千葉女子高校
41	「街のバリア点検隊」の活動で作成したバリアフリー調査マップにトイレ・レストラン・観光などに関する情報を加えたおもてなしマップを作成、提供する。	昭和秀英高校

2020年東京オリンピック・パラリンピック（千葉の魅力発信）

番号	提 案 内 容	提案者の学校
15	一つの町を江戸時代風にして、日本茶や日本食を食べるところを作る	沼南高校
22	千葉の特産品である梨、スイカ、落花生などのお土産や特産品を味わってもらい魅力を伝えたい	成田西陵高校
23	みんなで特産のイチゴをとり、みんなでジャムを作る	松尾高校
24	千葉県産のお土産店を作る。	松尾高校
25	「スリランカの人！見にこんか？」大作戦を展開する	松尾高校
26	チケットや割引券、商品などをかけての千葉に関するクイズを行う	松尾高校
27	千葉の酒と千葉のピーナツのセット販売を行い、酒を絞る体験かピーナツを収穫する体験のどちらかを選んでできるようにする	松尾高校
28	サーフィンと千葉の名物をコラボレーションする	松尾高校
29	外国人が買いやすいお土産などを開発する	松尾高校
30	オリンピック観戦に来た外国人にいちごなどの農産物をお土産にする	松尾高校
42	【幕張の街でのイベントや観光案内】「見浜園」や「幕張の海」や公園を紹介・案内する。また、公園や沿道、浜田川や海の近くで縁日や文化交流プログラムを実施する屋台などを高校生や大学生が運営して、日本文化やおもてなしを楽しんでもらう。	昭和秀英高校

2020年東京オリンピック・パラリンピック（暑さ対策）

番号	提 案 内 容	提案者の学校
5	汗を吸収しやすい素材を使った服や手持ち扇風機を作る	松尾高校
17	日差しよけにロゴマーク入りのサンバイザーや扇子を作成する	船橋二和高校
31	色々なところにミストシャワーを設置する	中央学院高校
32	チーバくんとオリンピックキャラクターをコラボさせたうちわを作る	中央学院高校
33	ミニ扇風機を回した時に、オリンピックのマークが光って見えるように工夫する。（日本国旗バージョンも）	沼南高校
34	安く多く作れる広告の入ったうちわを考える	松尾高校
35	うちわを入場者に配り、こまめな水分補給を促すポスターをはる。	松尾高校
36	大会のロゴを入れた扇子を販売したり、タオル、手ぬぐいを配る	松尾高校

2020年東京オリンピック・パラリンピック（地域からの盛り上げ）

番号	提 案 内 容	提案者の学校
37	サーフィン会場の一宮町で聖火を呼び込み町ぐるみで盛り上げたい	一宮商業高校
38	千葉県の各駅でのれん（のぼり）を立て、あいさつ運動と一緒にあいさつをする。また空港などで千葉らしさを強調する。	松尾高校
39	地域の材料を使って料理や小物を作る	松尾高校
40	幕張の「大空に五輪」「地上に五輪」でおもてなし・聖火リレーの受入れ	幕張総合高校

フォーラムで提案・発表されたアイデア

第16回世界女子ソフトボール選手権大会（チームの応援・暑さ対策）

アイデアタイトル	主な内容	番号	学校	備考
応援グッズ	事前にファンが集まり、応援グッズを作成し配る	1	沼南	
「かぶる蛇の目」でお冷はいかが？	観戦の際、和風柄のかぶるタイプの日傘、天然水などを用意し配る	2 7	松尾	
メガホンでエールを！！	安く簡単に作れる厚紙でメガホンを作り応援		東京学館	当日提案

2020年東京オリンピック・パラリンピック（今からできるボランティア）

アイデアタイトル	主な内容	番号	学校	備考
やさしい日本語で「誰でも」コミュニケーション！	外国人が滞在中に役立つ「やさしい日本語カード」を高校生が作成し、会場で配り、案内する	11	松尾	
V I V A ! Let's clean CHIBA with us!	県内各地で、大人から子供まで参加できるボランティアイベントを開催し、外国人に参加してもらう	12	松尾	
ゴミを拾ってオリ・パラをみよう	ゴミ拾いイベントを開催し、千葉県のクリーンさをアピール	13	松尾	

2020年東京オリンピック・パラリンピック（おもてなし）

アイデアタイトル	主な内容	番号	学校	備考
地震リーフレットを作ろう！～日本を訪れる旅行者に安心を～	来日する外国人の為に、地震の基礎知識、各場所の対処法、東日本大震災の被災状況、英語版災害用伝言ダイヤルの使用法などを記載したパンフレットを作成する。	16	佐倉	
高校生で作る「スリランカおもてなし隊」	山武市が提携しているスリランカの人を高校生がおもてなしする。このため現地語を学習し、一緒に試合観戦しながら日本の良さを紹介する。	19	松尾	
やさしい日本語、英語でコミュニケーション	やさしい日本語、英語教室を無料で開催し、地元での受け入れ体制を整える。	20	松尾	
開会式でオーケストラ部・ミュージカル部による演奏・演技での盛り上げ	特色ある部活動の演奏、演技で開会式等を盛り上げ、会場周りに花を植え大会を華やかに準備する。生徒がお年寄りや車いすのお客様のお手伝いや、出場選手のために、日本や千葉県の魅力を盛り込んだ手作りの料理やお菓子をプレゼント。	21	千葉女子	
おもてなしマップ作成	利用者目線で使えるマップ作りを行う。「観光」、「レストラン」、「トイレ等の生理関係」、「緊急事態」などについて、バリアフリーを始め利用者に必要な情報を盛り込んだマップ作りを行う。	41	昭和秀英	
災害の対策	災害対策のため、外国人向けに工夫したリーフレット（ロゴやQRコードの活用など）を作成し、人目につきやすい公共の場所等に設置する。併せて、学生、駅員などのコミュニケーション能力を高める。		日出学園 聖徳附属中	当日参加

2020年東京オリンピック・パラリンピック（千葉の魅力発信）

アイデアタイトル	主な内容	番号	学校	備考
日本ならではの習慣の文化体験を～祭り～	祭をキーワードにしてイベント、食事、着物、様々な体験などの日本の習慣、文化の魅力を発信する。	15	沼南	
千葉の特産品を味わう・販売する・作る	千葉の特産品を味わう（夏野菜カレー等）、販売する（ジャム、クッキーなど）、作る（落花生のお菓子等）などにより千葉の魅力を発信する。	22	成田西陵	
スイーツとサーフィンの街・千葉！	一宮の名産品を使ったキャラクターを公募し、そのグッズを各地で販売したり、名産品で軽食などを作りることにより各地をつなぎ、2020年以後にもつなげる。	23 28	松尾	
チーバ君を世界的スターにしよう！	チーバ君を競技とコラボさせ、オリンピックを通じて千葉の魅力を発信する。	29	松尾	
千葉の農産物をおみやげに	外国人に千葉の名産品を食べてもらうため、イチゴ、ピーナツ、梨などを使った商品を開発し販売する。	30	松尾	
幕張の観光資源を活かす！	幕張にある「見浜園」、「幕張海浜公園」を使い、日本文化を体験したり、千葉の魅力を伝えられるイベントを開催する。	42	昭和秀英	

2020年東京オリンピック・パラリンピック（暑さ対策）

アイデアタイトル	主な内容	番号	学校	備考
光るミニ扇風機	回した時にオリンピック・パラリンピックのマークや、色々な国の国旗が光って見えるミニ扇風機を作る。	33	沼南	
房州うちわを世界に広めよう	各会場で、入場者に房州うちわを無料配布する。デザインには浮世絵や、各国の国旗、オリンピック・パラリンピックのマークを入れる。	35	松尾	

2020年東京オリンピック・パラリンピック（地域からの盛り上げ）

アイデアタイトル	主な内容	番号	学校	備考
のぼりを立てて、地元をアピール	県内各駅で、のぼりを立ててあいさつ運動をする。のぼりで地元をアピールし、近くには名産品の情報を掲示する。	38	松尾	
千葉県の聖火リレー	千葉県の聖火リレーを一宮から幕張に飛行機でつなぐ。一宮では海から聖火を受け入れ、幕張では「空に五輪」、「地上に五輪」などそれぞれの特徴を生かした受け入れを行う。	37 40	一宮商業 幕張総合	両校アイデアを統合

※番号は「ボラコン！」の番号です。

※学校は「中」の表記があるもの以外は高等学校です。

IV 2020ちばおもてなし隊チャレンジステージの推進

1 関係団体との協力

2020ちばおもてなし隊チャレンジステージでは、様々な団体の皆様の協力を頂きながら、事業を推進してきた。

その概要は以下のとおりである。

○学生団体おりがみ

街の魅力・バリア点検隊の事前打合せ、実地調査、発表会、まとめの会などで、ファシリテーターとして高校生たちの活動をサポートし、運営にも協力頂いた。

また、白井市でのサマースクールでは、参加した子どもたちの体験・交流事業を担当した。

フォーラム「2018→2020 私たちのおもてなし」では、特別協力団体として、企画の段階から意見交換などに参加し、当日のワークショップの進行などに協力頂いた。

○ちば国際コンベンションビューロー 千葉県スポーツコンシェルジュ

2020ちばおもてなし隊チャレンジステージ全般にわたって、企画立案の段階から、各事業に実施段階に至るまで、多方面で協力頂いた。

特に、パラスポーツの体験では白井市で実施した事業のプログラムの立案、昭和秀英中学でのゴールボール体験での講師、フォーラム第1部でのコーディネートなどに協力頂いた。

○第16回世界女子ソフトボール選手権大会組織委員会

○みんなで応援！千葉県経済団体協議会

両団体には、フォーラムの告知資料に協力団体として協力頂くとともに、フォーラム当日には事業の取組の紹介及び閉会行事での講評などを行って頂いた。また、フォーラムの告知でも主催の会議の機会などに資料を配布頂くなどの協力を頂いた。

○幕張新都心まちづくり協議会

街の魅力・バリア点検隊調査結果発表会及びフォーラムの開催にあたり、協議会会員宛にメールによる広報に協力頂いた。

○千葉県国際交流センター

同センター登録ボランティアにフォーラム開催を告知頂いた。

○成田市シティプロモーション部スポーツ振興課

「おもてなしボラコン！」及びフォーラムの告知にご協力頂いた。

○一宮町オリンピック推進課

フォーラムの告知にご協力頂いた。

○プロジェクト結

フォーラムでおもてなし活動の取組について紹介頂いた。

○千葉県教育委員会

○千葉県高等学校長協会

○千葉県特別支援学校長会

それぞれ「おもてなしボラコン！」及びフォーラムの後援を頂いた。

○千葉県高等学校PTA連合会

「おもてなしボラコン!」、フォーラムの後援及び同連合会研究大会での参加者へ説明機会を提供頂いた。

○千葉県高等学校文化団体連盟

同連盟役員会で「おもてなしボラコン!」及びフォーラムの説明機会を提供頂いた。

○千葉市教育委員会

○一般財団法人千葉県青少年協会

○千葉県青少年団体連絡協議会

それぞれフォーラムの後援を頂いた。

2 広報について

(1) 学校等への周知

ア 街のバリアフリー化サポート（仮称）の参加について

平成29年5月19日付け文書で、参加を呼び掛けた。

対象：千葉市、船橋市、習志野市、八千代市に所在する高等学校

イ 街の魅力・バリア点検隊発表会の開催について

平成29年8月31日付け文書で、開催のお知らせを行った。

対象：県内の全高等学校

ウ おもてなしボラコン!について

平成29年12月11日付で、「おもてなしボラコン!」への参加を呼び掛けるとともに、ポスター、チラシを配布した。

対象：県内の全高等学校・特別支援学校

ポスター・チラシの印刷部数：ポスター 800枚 チラシ 10,000枚

エ フォーラム「2018→2020 私たちのおもてなし」の開催について

平成30年1月9日に、フォーラムへの参加呼び掛けの文書及びポスター、チラシを配布した。

対象：県内の全高等学校・特別支援学校

県内大学・短期大学・高等専門学校、県内専修学校、県内市町村教育委員会、

県内生涯学習施設（生涯学習センターなど）、県内国際交流協会、各後援団体など

ポスター・チラシの印刷部数：ポスター 1,000枚 チラシ 21,000枚

(2) 関係団体を通じた周知

Ⅳ－1に記載の方法で関係団体を通じた周知を行った。

(3) 報道機関を通じたお知らせ

事業推進に際して、千葉県庁記者クラブを通じて報道機関へのお知らせを行った。

ア 「街の魅力・バリア点検隊」の現地調査について 平成29年7月25日付

イ 「街の魅力・バリア点検隊」調査結果発表会について 平成29年9月15日付

ウ 「おもてなしボラコン! 千葉の未来を築くおもてなしアイディアコンテスト」について
平成29年12月18日付

(4) ホームページ、Facebookを通じた告知

街の魅力・バリア点検隊調査結果発表会、おもてなしボラコン！及びフォーラム開催前に、ホームページ及びFacebookを活用した告知を行った。

併せて、千葉県公式フェイスブックページ「ちばボランティア情報局」、学生団体おりがみのフェイスブックページ、千葉県スポーツコンシェルジュのメールマガジン「SPORTS CONCIERGE TIME」などでチャレンジステージの様々なイベントの紹介をして頂いた。

3 企画会議・意見交換会等について

事業の企画、事業内容の検討に当たっては、生涯学習応援団ちば内部の検討だけではなく、様々な関係者と意見交換をしながら進めてきた。

主な参加者は、生涯学習応援団ちばメンバー、千葉県スポーツコンシェルジュ関係者、学生団体おりがみ、学校関係者、行政関係者などである。

意見交換会などの経過は以下の通り。なお、5月に実施した意見交換会は、県との委託契約締結前のものである。

平成29年5月22日

「街のバリアフリー化サポート」（仮称）、ボランティア参加促進事業への応募などについて
意見交換

平成29年7月10日

「街の魅力・バリア点検隊」第2回目の打合せ、実地調査、調査結果のまとめなどについて
意見交換

平成29年10月11日

街の魅力・バリア点検隊に関連して、調査結果のまとめと行政への情報提供、点検隊まとめの会の開催などについて意見交換するとともに、その他のおもてなし隊チャレンジステージの進め方全般について意見交換

平成29年11月16日

フォーラムのタイトル・事業コンセプト、おもてなしボラコン！、点検隊まとめの会などについて意見交換

平成29年12月28日

おもてなしボラコン！、フォーラムの進め方などについて意見交換

平成30年1月23日

おもてなしボラコン！、フォーラムの進め方（詳細プログラム）などについて意見交換

平成30年2月9日

フォーラムの進め方（詳細プログラム）について意見交換

以上のほか、個別の案件ごとに関係者と意見交換、情報交換などを進めてきた。

V 参加者の声

本年度の事業の分析

学生団体おりがみ

今年度を通して行われた「街のバリア点検隊」によるバリアフリーマップの作成では、千葉県内各地の中学校、高校から多くの生徒が参加しました。活動を通じて生徒たちは一見整備された街に、実は多くのバリアがあることに驚き、それらをどのようにして解決するか考える機会を得ました。これは彼らが2020年にどんな形で関わるかを考える上で、必ず役立つ経験です。また私たち大学生も中高生や地域の方と関わることで2020年に向けてどんな“おもてなし”をしていくかを考えさせられました。

また、年度末に行われたフォーラムでは100人を超える参加者とともに3時間を超える密な時間を過ごしました。アイデア発表は、全ての班がパワーポイントを使用しており、またその完成度から、自分たちのアイデアと向き合った時間の長さを感じさせられました。そして、自分達の発表だけでなく、多くのアイデアの発表を聞いた後すぐに意見交換の場があったため、自分たちのアイデアをさらに磨けた班も多かったように感じます。このような経験は、オリンピックに関する活動に関わる機会が今後さらに増えていくであろう中高生にとって、アイデアの企画を実践に近い環境で行うことができた貴重な経験になったと感じます。また、そんな中高生に対して大学生である私達にできることを考えさせられる貴重な経験となったと感じています。

東京オリンピック・パラリンピックまであと2年となり、徐々に街も人も2020年に向けた活動を本格化しつつあります。その中で中高生や大学生が率先して行う活動は、街の活性化をより促しやすいということを、これまでの活動を通して感じています。オリンピック・パラリンピックに向けて自分の街で活動してきたことが、2020年の先も必要となってくるということを中高生のみなさんにも理解していただきつつ、より自分たちの活動に自信をもって取り組んでいってほしいと思っています。それに向けて、私達大学生も最大限のサポートをしていきながら、今後も中高生のみなさんと一緒に様々な活動を行っていきたいと思っています。

フォーラムに参加して

みんなで応援！千葉県経済団体協議会 大塚 泰祥

フォーラムに参加させて頂き、現代の高校生の問題意識の高さ、柔軟な発想力、熱意や行動力などに感心しました。

私が高校生の頃は、自分自身のことに関心があり、人のために何かをするという発想はありませんでした。また、当時は、ボランティア活動は、慈善活動の意味合いが強く、特定の人達の活動と

いう認識でした。社会環境や考え方が変わり、ボランティアに対する概念も大きく変化していると思います。ボランティア活動を通して年齢の異なる人々、価値観の異なる人々、言語・文化の異なる人々との関わりが増え、社会全体に対する関心、理解、興味が広がると思います。

ボランティア活動は、自分自身を高め、中・長期的に将来を見据える上でも大きな役割を持つと思いますので、高校生の皆さんには是非ボランティア活動に興味を持ち、積極的に参加してもらいたいと思います。

「街の魅力・バリア点検隊」 アンケート結果

(高校生)

Q 街の魅力・バリア点検隊全体の運営について、意見や改善点があれば書いてください。

- 今までバリアフリーについて考える機会がなかったので、機会をもらえてよかった
- 素晴らしい活動だと思うので、更にメディア等でこの活動を広めるべき
- さらに深いところまで調べられるとよい
- 今回の提案の一つを実際に私たちが行動してみたい
- 今回は大学生がたくさん引っ張ってくれたが、自分たちにできることが他にあったらやりたい
- アイデアを具現化してくれて嬉しかった
- 大学生と関わることができてよかった
- 今回で終わりではなく、2020年になってもオリパラのお手伝いができたらいいと思う
- もう少し打ち合わせの回数が多い方が良かった
- 自分たちの意見とは別に違う班の色々な意見を聞けて良かった

(社会人等)

Q ワークショップの感想について

- 生徒から多くのことを教えてもらい、こちらからも経験上の意見を伝えた。双方に実り多いものになればうれしい。
- 大人の目線では気付かないことを教えられたような気がする。
- ワークショップ後のまとめを短時間でよくまとめた。
- ハード面のバリアについてしっかり点検できていた。ソフト面での提案があるとよかった。
- 高校生と直接話せる・聞ける時間でよかった。
- 壁に貼った資料を基に学生と意見交換するスタイルはとても良い。ざっくばらんに学生と意見交換できてよかった。

Q 発表会全体をとおしての感想、意見、提案など

- 生徒の皆さんのまっすぐな感想は大人にとって痛い部分もあったが、忘れていた視点を思い出させてもらった。直接話しができることが大事。
- これからも多様な視点・立場があることを学び大きく成長して欲しい。
- もっと実際の障がい者と触れ合う機会があってもよかった。

- 行政に（意見を）投げるより、本人たちができる参加の仕方考えさせたいと思った。
- オリンピック・パラリンピックまで時間があるようで残りが少ない。できることを進め、千葉県のおもてなしの心を表せたらと思う。
- 車椅子に乗ったり、目の悪い方の立場になったりして細かに調査をして、高校生ならではだと思った。とても良いことだと思う。
- 「おもてなし」の原点はこういうことだと再認識した。派手なイベントのその前に誰もが安全に訪れることができること、その気持ちを皆が持つことが大切。
- このような発表の場があることが学生にとって良いと思った。世界からみて日本人のプレゼン力はまだまだといわれるが、（生徒の）皆さん堂々としてよかった。若い方からの魅力発信、バリアへの気付き、改善提案で世界を変えていける。
- 現地調査はしっかりしていたが、HPの周辺調査などもしてほしい。また、情報発信の方法のところまで踏みこんでほしい。
- 中・高・大と若い学生と一緒にフィールドワーク・まとめ・プレゼンをするのはとても良い。
- 私たちが日頃見て見ぬふりをしている負の部分に純粋な目と気持ちで洗い出し発信してくれることは世の中を動かす力になる。これを無視しては大人としてよくない。
- 個々の視点・まとめ方・プレゼンの良さに加え、彼らが取り組む意義の重要性を改めて感じた。
- 施設管理者および道路管理者である「千葉県」や「千葉市」はきちんと対応する必要がある。

フォーラム アンケート結果

（生徒）

- Q 大学生や地域の人、他の生徒と話し合うことによって、自分のアイデアにどのような発見や変化がありましたか？また、そのことに対してどのように感じましたか？
- いろんな意見が聞けて面白かった。
 - 今まで自分が考えていたこととは違う意見がたくさん知れてすごく勉強になった。
 - 東京オリンピック2020にボランティアとして参加したいと思った。
 - 自分たちのアイデアの問題点に気付くことができた。
 - 様々な案があり、こんな発想もあるのかと思った。
 - 地震のリーフレットの話聞いて、おもてなしといってもただ外人を喜ばせるのではなく、大事なことを伝えるのもおもてなしだなと感じた。
- Q 今回のイベントを踏まえて、もっとやりたかったと思うことはありましたか？具体的に教えてください。
- 様々な人ともう少し話してみたいと思った。
 - 高校1年生のボランティア参加について教えてもらえてよかった。
 - アイデアについてのディスカッションをもっとやりたかった。
 - アイスブレイクをもう少し長めにやりたかった。

(社会人)

Q 面白いと思うアイデア、イベント全体についての感想などについて

- サーフィンで聖火リレー、幕張の学生の五輪の輪が面白かった。
- ICTを活用したアプリの開発などがあるとよかったと思った。(スマホの貸出)
- 高齢者向けにはオンデマンドプリント、冊子などが必要
- 予算の支援がどうなっているのかと思った。
- 高校生が自分たちの殻を破ろうとしていることを評価したい。ただ、やや物配り提案が多すぎる。「行動」にこそおもてなしがある。
- おもてなしを特別なこととせず、普段の「親切」と「やさしさ」の延長線上で考えるべき。
- 異文化や国の誇りを尊重し、励ますのがスポーツ大会では重要。
- 高校生各自のアイデアや意見を引き出す進め方が良い。また、各グループにおりがみの方々がついてうまく意見を引き出すサポートをしているのもよかった。
- 高校生の活動、提案に感動した。おりがみの大学生たちの活動を引き継ぎ、beyond 2020のレガシーの中心となるのは今の高校生たちなので、その高校生がこんなに頼もしいので素晴らしいと思った。このような活動をもっと県内で横に広げていくとよいと思う。
- 若い力と知恵、感性を引き出す取り組みを企画・実施した県とNPOに感謝する。私たち大人の役割はまさにこれだと思う。

2020ちばおもてなし隊チャレンジステージを終えて

2020ちばおもてなし隊の事業は、本年度で4年目となりました。今年のチャレンジステージでは事業実施結果に記載したような事業に取り組んできました。

チャレンジステージ全体を通して、参加者の在籍する学校数は中学校、高等学校及び特別支援学校をあわせて23校、参加者は延べ604人となりました。参加者した中学生が高校生や大学生と熱心に意見交換をしている姿は印象的でした。

参加の仕方も、部や生徒会などの単位のほか、授業の一環としてアイデアを考え参加したり個人やグループで参加するなど多様なものとなっており、今まで以上の広がりを感じました。

チャレンジステージでは「参画と繋がり」をキーワードといたしましたが、それを確かなものとするには、今後の取組みが一層重要との思いを強くしました。

生涯学習応援団ちばでは今年度の成果を踏まえ、2020東京オリンピック・パラリンピックでのボランティア活動やおもてなし活動に寄与し、若者を中心としたボランティア活動への参加機運の一層の醸成を図るよう、多くの皆様のご支援・ご協力を頂きながら事業を進める所存です。

今後ともよろしく願いいたします。

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば 事務局

平成29年度千葉県ボランティア参加促進事業
2020ちばおもてなし隊チャレンジステージ
ー参画と繋がりー

事業報告書

平成30年3月9日発行

千葉県

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば



街の魅力・バリア点検隊に参加した皆さん

